

硫黄島からの遺骨帰還のための特命チーム 第3回会合 議事要旨

日時：平成22年10月22日（金）17：15～17：40

場所：官邸4階特別応接室

出席者：菅内閣総理大臣、阿久津内閣府大臣政務官、内閣官房副長官補付内閣参事官（厚生労働担当）、内閣官房副長官補付内閣参事官（防衛担当）、外務省北米局北米第一課長、厚生労働大臣官房審議官（援護担当）、厚生労働省社会・援護局援護課長、厚生労働省社会・援護局援護企画課外事室長、防衛省大臣官房審議官、防衛省大臣官房文書課長、防衛省経理装備局施設整備課長

議事：

○菅内閣総理大臣挨拶

- ・省庁を越えた努力により51柱の御遺骨を収容できたと報告を受けた。毎年収容されている御遺骨に相当するということだが、さらに同じ場所に相当数の御遺骨が埋まっているのではないかと聞いている。
- ・我が国の領土である硫黄島において大きな一歩を踏み出した。特命チームを先頭にして、全ての御遺骨を収容するという気持ちで取り組んでまいりたい。

○厚生労働省から報告

- ・7月29日から31日にかけて阿久津政務官が米国公文書館を訪問し、集団埋葬地2か所の情報を得た。その後、8月に現地の試掘調査を行ったが、集団埋葬地の発見には至らなかった。
- ・9月20日から24日にかけて再度公文書館等を訪問し、2か所の cemetery に関する地図を入手。防衛省の情報も踏まえ10月7日から本日まで第2次の調査団が調査を行った。
- ・その結果、2千柱と言われている滑走路西の埋葬地で28柱収容。1つの場所に10体程度積み重なっていることもあり、御遺骨は部分遺骨が多かった。緑色の布のようなものに包まれていたものもあり、人為的に埋められたのではないかと推察される。
- ・200体と言われている摺鉢山の麓の埋葬地は23柱収容。一体一体が間隔をおいて埋葬されていた。御遺骨の状態は、完全一体が多い。
- ・両埋葬地とも、引き続き範囲等について確認し集団埋地かどうか、引き続き周辺を調査する。

○意見交換において、以下のような発言

(防衛省)

- ・防衛省としては引き続き最大限の協力を行っていききたい。また調査では科学技術を駆使して成果につなげていきたい。

(菅内閣総理大臣)

- ・せっかく見つかったので、今後も迅速に対処する必要がある。重機の問題や自衛隊の協力、若い人達への作業への参画の呼びかけといったことも含めて全体の流れを考えて欲しい。
- ・米国資料を徹底的に洗うことが必要。併せて、新しい科学技術を組み合わせて遺骨帰還を進めて欲しい。

○最後に阿久津内閣府大臣政務官より、引き続き12月に、第3次硫黄島遺骨収容・調査を進めるとともに、可能であれば、その前に試掘調査を行い、政府一体となって硫黄島からの遺骨帰還の推進に努めていく旨の発言。